

令和2年度版 改善計画

学校名：山梨県立かえで支援学校

No.	項目	現状と課題	R3年度に目指すべき状態	① R2年度に実施する内容 ② R3年度に向けて検討する内容	達成状況
1	会議等の効率化	大規模校のため定例会議の数が多く、また、議事・連絡事項も多いことから、会議が長時間化する傾向が強い。	定例会議の整理	① デスクネットςを利用した連絡報告事項の伝達による会議時間の縮減 ② 会議の内容を確認し統廃合を検討	
2	学校行事の負担軽減	小・中・高と3学部あり、また、大規模校のため学校行事も多い。児生の体験的学習の重要性を考えると、簡単に行事を削減させることは難しい。	学校行事の簡素・縮小化	① 学校行事の一部削減 ② 学校行事の内容を簡素・縮小化しながらも、体験的学習の機会は損なわない運営	
3	校内組織の見直し	今年度より学年主任(12名)も分掌に加わることにした。また、委員会は昨年度の状況や、今後の学校運営を見通した中で、計16委員会(常設9、特設7)とした。委員会数は昨年度より1減となったが、3学部を抱えていることもあり、同じ県立学校である高等学校と比べてもかなり多い。	分掌業務の平準化と委員会業務のさらなる合理化	① 学年主任が分掌に加わることから分掌人数の増加による業務内容の分散化 ② 分掌の業務内容の見直しと、委員会の業務内容の効率化と統廃合	
4	業務の効率化	一個人が係わる業務の種類が多く、内容も複雑なものが多い。個で対応しなければならぬ業務を除き、チームで対応していく体制を構築するとともに、自身もチーム対応に向けた意識改革をすることが必要である。	学校組織としての業務連携の強化とICTの活用	① 分掌、各学部が連携した業務内容の共有と連携の推進 ② より効率的な連携を目指し、学部連絡会の積極的運用とICTを活用した業務内容の削減	
5	部活動の負担軽減	中・高の生徒を対象に、基本的に毎週火曜日と木曜日に4部活動を行っている。活動時間は短いものの、活動中は複数の顧問が必ず指導に入るため、放課後の会議等の業務も調整しながら体制を整える必要がある。	部活動の業務の整理と指導体制の見直し	① 部活動の顧問の業務の整理と、実施日及び内容等の再考 ② 主顧問、副顧問の役割の確認と指導体制の合理化	
6	地域人材の活用	学校応援団として、地域ボランティア4人が保険加入し、授業に参加していただいている。	地域ボランティアの活用による地域との連携継続	① 前年度と同数以上の地域ボランティアの活用及び同じボランティア協力者の継続活用 ② 地域人材活用方策の再検討	
7	定時退庁日の実施	児生指導以外の業務を行う時間が限られており、また、基本的にITによる授業のため指導グループごとの打合せも多く、職員の定時退庁が進まない。	月2回以上の定時退庁と月2回の「きずなの日」の達成	① 定時退庁日及び長期休業中の定時退庁と「きずなの日」実施の徹底 ② 完全定時退庁日の増設	
8	学期・年度末処理	個別の指導計画、個別の教育支援計画、通知表、指導要録、出席簿等、児生生徒の学習指導・評価に係る学校事務量が極めて多い。	各書類の様式の統一とICTを活用した業務の合理化	① 学部連絡会における様式統一に関する確認と情報の各学部内での共有 ② Web教務を利用した各書類作成の推進	

※達成状況：次のA～Dで評価し、各年度末に県立学校は県教育委員会へ、公立小中学校は市町村（組合）教育委員会へ提出する。

A 達成できた B ある程度は達成できた C あまり達成できなかった D 達成できなかった。

※様式は、必要な項目が含まれていれば、適宜、変更して使用して差し支えないこと。